

「コシヒカリBL」栽培ごよみ（中山間）

◎品種特性

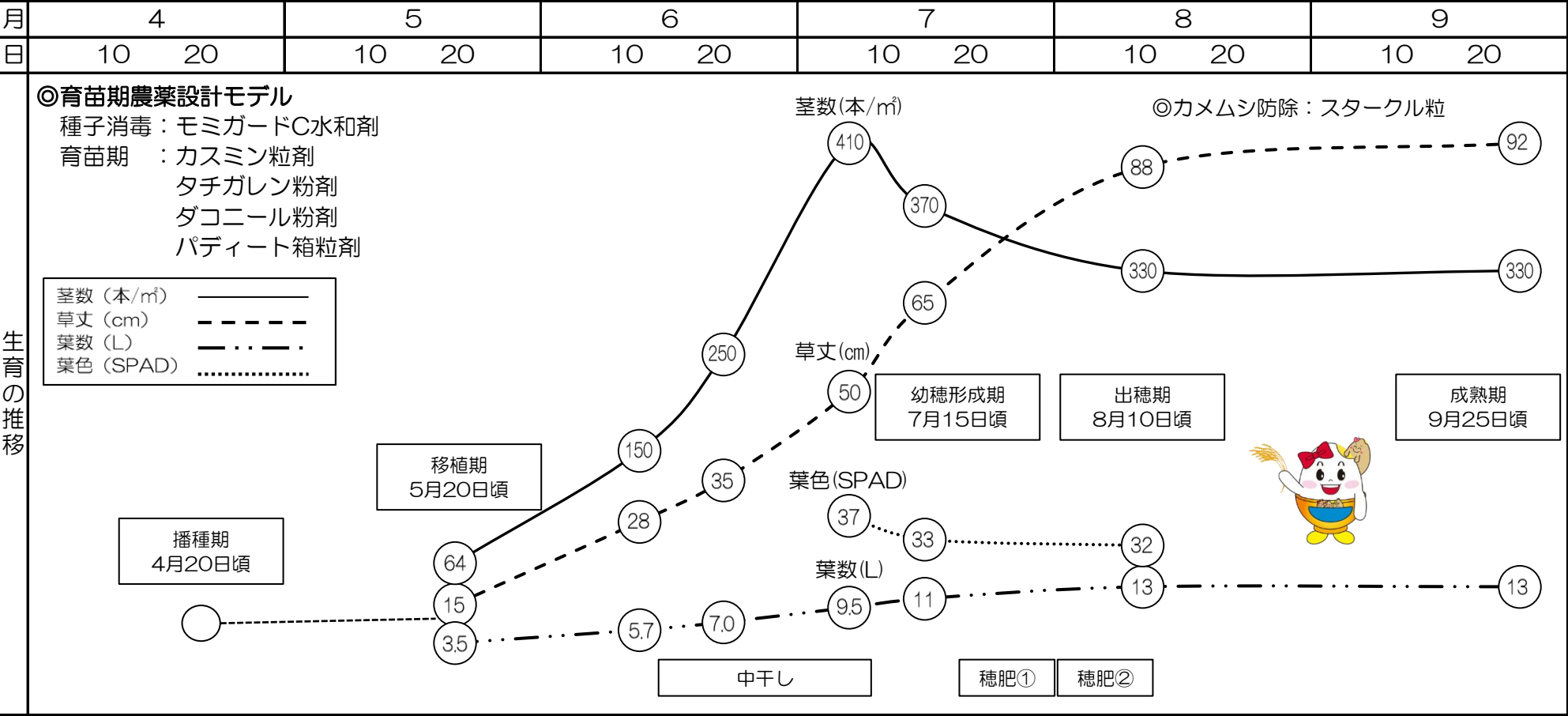
草型	中間
耐倒伏性	弱
紋枯病	やや強

◎510kg/10aの収量構成要素

穂 数	330本/㎡
1穂籾数	79粒
㎡あたり籾数	26,000粒
登熟歩合	89%
千 粒 重	22.5g

◎品質目標

1等級比率	95%以上
整粒歩合	85%以上
玄米タンパク含有率	6.0%（水分15%換算）



栽培のポイント

4～5月

○適正生育量を確保するため、4月下旬の播種及び5月中旬の田植えを実施

- ・播種量 中苗 100～125g/箱（催芽籾）
- ・中苗は、30日～35日程度の育苗日数となるよう田植に合わせて播種し健苗を育成
- ・浸種は十分に行う（特に浸種初期水温10℃～15℃）
- ・いもち病、紋枯病の多発生地においては、育苗箱施用剤等による予防を実施
- ・栽植密度60～70株/坪、1株3～4本植え

○茎数及び籾数過剰を防止するために、適正な元肥窒素量を施用

6月

○分けつの発生状況を把握し目標穂数の7～8割の茎数を確保したら中干しを開始

- ・60株 ⇒ 14本/株
- ・70株 ⇒ 12本/株

7～8月

○いもち病・紋枯病の発生を確認したら速やかに防除する

- ・いもち病：ブラシン粉剤DL
- ・紋枯病：バリダシン粉剤DL

7～9月

○出穂25日後までは飽水管理を実施し、高温年は出穂30日後まで継続

8月

○出穂後好天による高温登熟が予想され、出穂期の葉色がSPAD値で31（葉色版で4.0）を下回ることが予想される場合、出穂3日前に窒素成分で1.0kg/10aいないを施用すると未熟粒が減少する

9月～10月

○品質確保に向け、圃場ごとに籾の黄化率を確認し適期収穫を実施

- ・黄化籾割合90%
- ・適正乾燥で胴割れ防止
- ・出穂後の積算温度1,000℃

収穫後（稲わら秋すき込み）

○稲わらの腐熟促進のため気温の高い10月中旬までに完了する

- ・深さは5～10cmの浅うち
- ・腐熟促進剤等の施用も効果的
- ・すき込み後は、圃場の排水性を良くして稲わらの分解を促進

◎元肥の目安（成分量kg/10a）

土 性	N	P	K
粘土質	3.0	10.0	6.0
砂 質	4.0	10.0	8.0

※地力・生育量に応じて施肥量を加減する

◎追肥（穂肥）の目安（成分量kg/10a）

穂肥時期	N	P	K
出穂18日前	1.5	0.4	1.5
出穂10日前	1.5	0.4	1.5

※2回目穂肥実施後も異常高温による栄養凋落が予想される場合は、出穂前葉色診断を実施した上で、追肥の要否を検討する

◎土づくり肥料

肥 料 名			施用量 kg/10a	成分量 kg/10a			
				N	P	K	Si
一つ選択	元肥	えちご上越ソイル元気	40～ 60	—	8.0～ 12.0	1.4～ 2.1	4.4～ 6.6
		越後の輝きソイル米スター	30	—	0.3	2.1	9.0
		けい酸加里プレミアム34	50	—	—	10.0	17.0
	追肥	スーパーシリカプレミアム	30	—	—	—	9.0

※N:窒素、P:リン、K:加里、Si:ケイ素

☆施肥設計モデル

肥 料 名		施用量 kg/10a	成分量 kg/10a			
			N	P	K	Si
元肥・穂肥（分施肥体系）	土づくり肥料より一つ選択		（左記数値を参照）			
	元肥チャレンジャー10	35	3.5	7.0	5.3	—
	えちご上越専用穂肥チャレンジャー	20	3.0	0.8	3.0	—
	土づくり肥料より一つ選択		（左記数値を参照）			
一発元肥体系	えちご上越スーパーチャレンジャー100	40	7.2	5.6	5.6	—

※一発元肥体系でも、生育状況に応じて追肥（穂肥）を実施する

「こしいぶき」栽培ごよみ（中山間）

◎品種特性

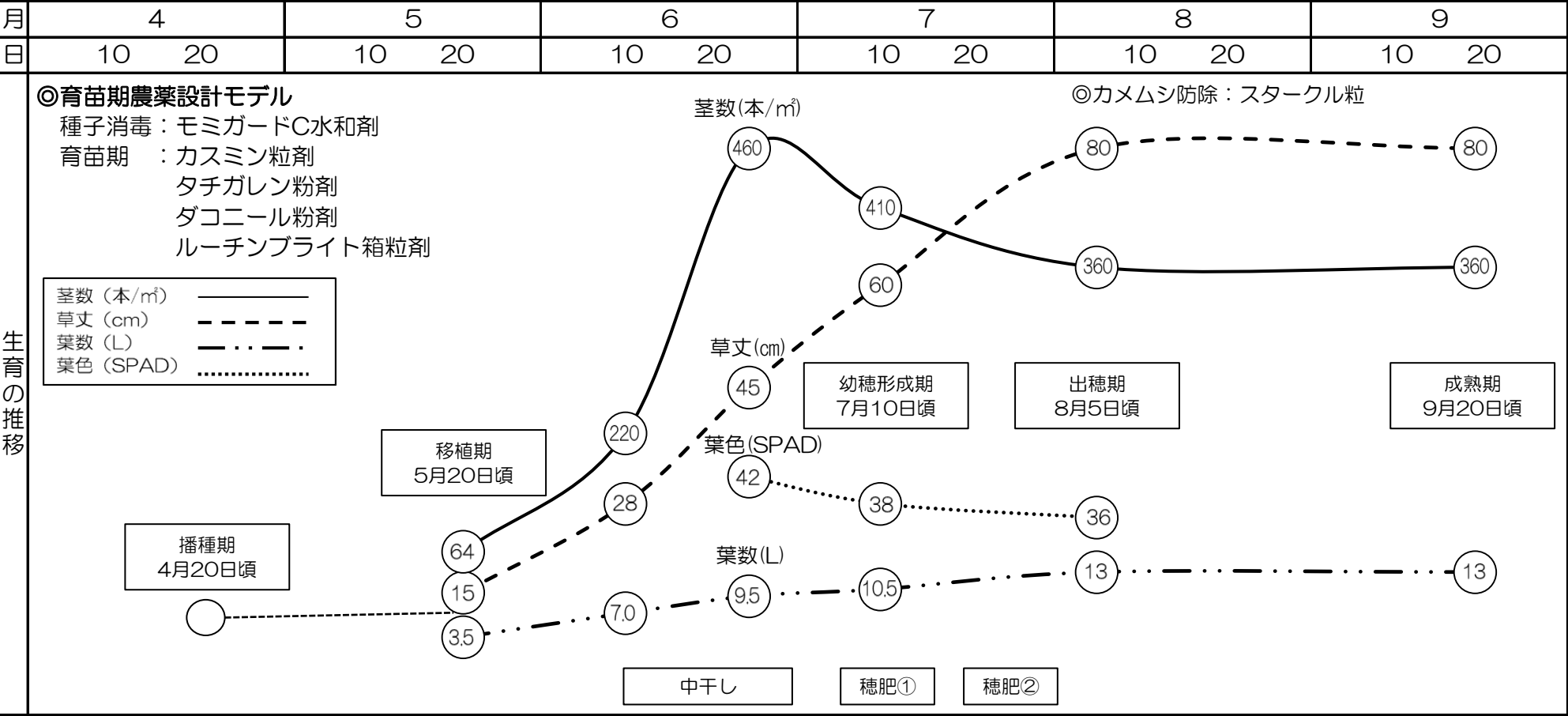
草型	中間
耐倒伏性	やや強
いもち病	中
紋枯病	弱

◎510kg/10aの収量構成要素

穂 数	360本/㎡
1穂籾数	74粒
㎡あたり籾数	26,500粒
登熟歩合	90%
千 粒 重	21.5g

◎品質目標

1等級比率	95%以上
整粒歩合	85%以上
玄米タンパク含有率	6.2%（水分15%換算）



栽培のポイント

4～5月

○適正生育量を確保するため、4月中旬の播種及び5月中旬の田植えを実施

- ・播種量 中苗 100～125g/箱（催芽籾）
- ・中苗は、30日～35日程度の育苗日数となるよう田植えに合わせて播種し健苗を育成
- ・浸種は十分に行う（特に浸種初期水温10℃～15℃）
- ・箱施用剤でいもち病、紋枯病の予防
- ・栽植密度60～70株/坪、1株3～4本植え

○茎数及び籾数過剰を防止するために、適正な元肥窒素量を施用

6月

○分けつの発生状況を把握し目標穂数の7～8割の茎数を確保したら中干しを開始

- ・60株 ⇒ 15本/株
- ・70株 ⇒ 13本/株

7～8月

○いもち病・紋枯病の発生を確認したら速やかに防除する

- ・いもち病：ブラシン粉剤DL
- ・紋枯病：バリダシン粉剤DL

○出穂25日後までは飽水管理を実施し、高温年は出穂30日後まで継続

9月

○品質確保に向け、圃場ごとに籾の黄化率を確認し適期収穫を実施

- ・黄化籾割合90%
- ・出穂後の積算温度975℃
- ・適正乾燥で胴割れ防止

収穫後（稲わら秋すき込み）

○稲わらの腐熟促進のため気温の高い10月中旬までに完了する

- ・深さは5～10cmの浅うち
- ・すき込み後は、圃場の排水性を良くして稲わらの分解を促進
- ・腐熟促進剤等の施用も効果的

◎元肥の目安（成分量kg/10a）

土 性	N	P	K
粘土質	3.0	7.0	6.0
砂 質	4.0	7.0	6.0

※地力・生育量に応じて施肥量を加減する

◎追肥（穂肥）の目安（成分量kg/10a）

穂肥時期	N	P	K
出穂18日前	1.5	0.4	1.5
出穂10日前	1.5	0.4	1.5

※2回目穂肥実施後も異常高温による栄養凋落が予想される場合は、出穂前葉色診断を実施した上で、追肥の要否を検討する

◎土づくり肥料

肥 料 名			施用量 kg/10a	成分量 kg/10a			
				N	P	K	Si
一つ 選択	元肥	えちご上越ソイル元気	40～ 60	—	8.0～ 12.0	1.4～ 2.1	4.4～ 6.6
		越後の輝きソイル米スター	30	—	0.3	2.1	9.0
		けい酸加里プレミアム34	50	—	—	10.0	17.0
	追肥	スーパーシリカプレミアム	30	—	—	—	9.0

※N:窒素、P:リン、K:加里、Si:ケイ素

☆施肥設計モデル

肥 料 名		施用量 kg/10a	成分量 kg/10a			
			N	P	K	Si
元肥 ・ 穂肥 （分 施肥 体系）	土づくり肥料より一つ選択	（左記数値を参照）				
	高度化成オール14	25	3.5	3.5	3.5	－
	えちご上越専用 穂肥チャレンジャー	20	3.0	0.8	3.0	－
一 発 元 肥 体系	土づくり肥料より一つ選択	（左記数値を参照）				
	早生スーパー元肥 パワフル30	20	6.0	2.0	0.8	－

※一元肥体系でも、生育状況に応じて追肥（穂肥）を実施する

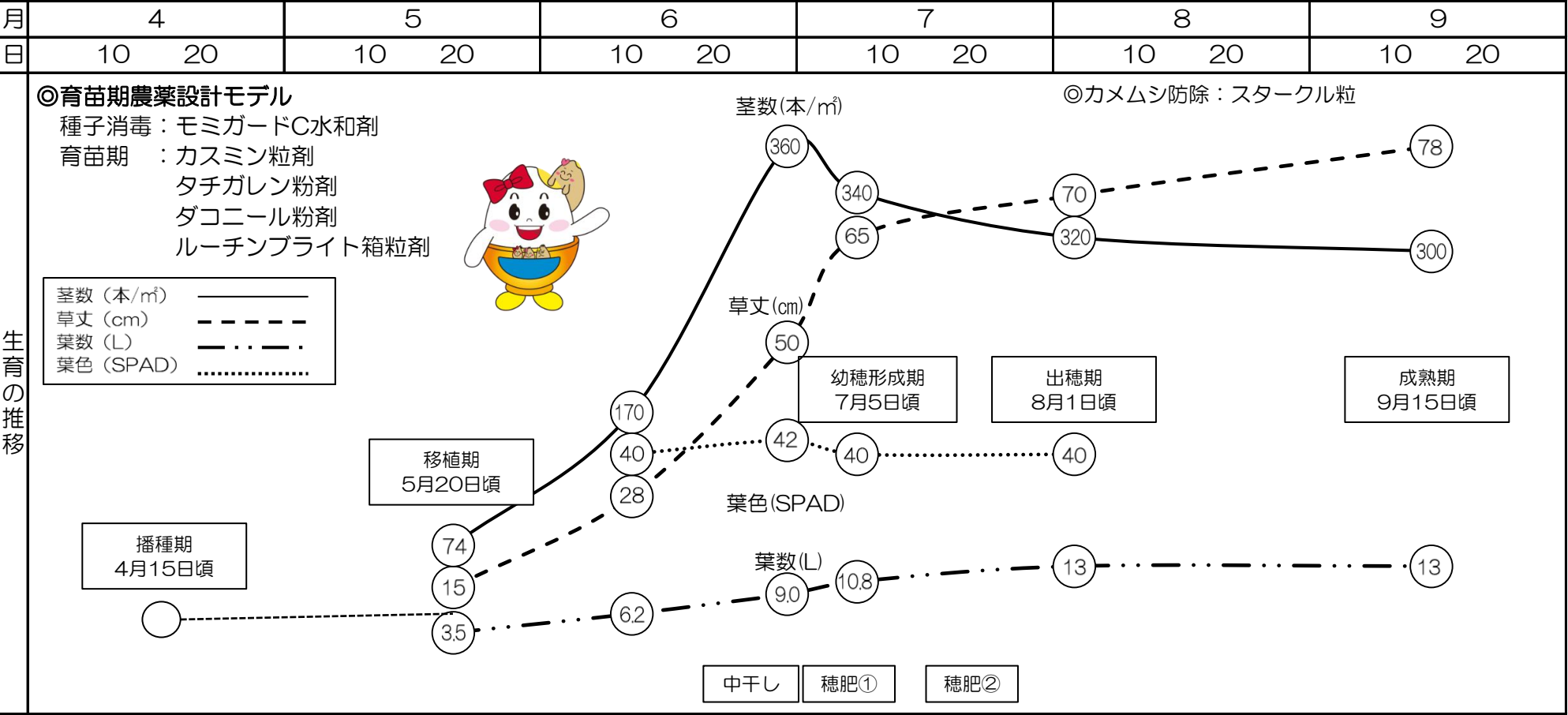
「つきあかり」栽培ごよみ（中山間）

◎品種特性

草型	偏穂重
耐倒伏性	やや強
いもち病	中

◎600kg/10aの収量構成要素

穂 数	320本/㎡
1穂粒数	90粒
㎡あたり粒数	28,000粒
登熟歩合	92%
千 粒 重	25.0g



栽培のポイント

4～5月

○生育量を確保するため、4月中旬の播種及び5月上旬の田植えを実施

- ・播種量 中苗 105～130g/箱（催芽粃）
- ・中苗は、30日～35日程度の育苗日数となるよう田植えに合わせて播種し健苗を育成
- ・休眠が深い場合があるので、浸種は十分に行う（水温12℃で積算120℃）
- ・箱施用剤でいもち病、紋枯病の予防
- ・分けつが取りづらい品種のため、栽植密度70株/坪、1株3～4本植え

○多収の第一歩は、粒数確保の施肥設計（元肥はしっかりと、穂肥は遅れず）

6月

○分けつの発生状況を把握し目標穂数の8割の茎数を確保したら中干しを開始

- ・70株 ⇒ 12本/株

7月

○穂肥施用で、出穂期までの葉色（SPAD値）を40以上保つ
粒数過剰で腹白粒が出やすくなるので過度な施用は控える

7～8月

○いもち病・紋枯病の発生を確認したら速やかに防除する

- ・いもち病：ブラシン粉剤DL
- ・紋枯病：バリダシン粉剤DL

7～9月

○出穂28日後までは飽水管理を実施し、高温年は出穂30日後まで継続

9月

○品質確保に向け、圃場ごとに粃の黄化率を確認し適期収穫を実施

- ・黄化粃割合90%
- ・適正乾燥で胴割れ防止
- ・出穂後の積算温度1,000℃～

収穫後（稲わら秋すき込み）

○稲わらの腐熟促進のため気温の高い10月中旬までに完了する

- ・深さは5～10cmの浅うち
- ・腐熟促進剤等の施用も効果的
- ・すき込み後は、圃場の排水性を良くして稲わらの分解を促進

◎元肥の目安（成分量kg/10a）

土 性	N	P	K
粘土質	6.0	6.0	6.0
砂 質	7.0	7.0	7.0

※地力・生育量に応じて施肥量を加減する

◎追肥（穂肥）の目安（成分量kg/10a）

穂肥時期	N	P	K
出穂30～25日前	2.0	0.5	2.0
出穂14日前	1.5	0.4	1.5

※2回目穂肥実施後も異常高温による栄養凋落が予想される場合は、出穂前葉色診断を実施した上で、追肥の要否を検討する

◎土づくり肥料

肥 料 名		施用量 kg/10a	成分量 kg/10a			
			N	P	K	Si
一つ選択	元肥	えちご上越ソイル元気	40～60	—	8.0～12.0	1.4～2.1 4.4～6.6
	元肥	越後の輝きソイル米スター	30	—	0.3	2.1 9.0
	元肥	けい酸加里プレミアム34	50	—	—	10.0 17.0
	追肥	スーパーシリカプレミアム	30	—	—	— 9.0

※N:窒素、P:リン、K:加里、Si:ケイ素

☆施肥設計モデル

肥 料 名		施用量 kg/10a	成分量 kg/10a			
			N	P	K	Si
元肥＋穂肥（分施肥体系）	土づくり肥料より一つ選択		（左記数値を参照）			
	高度化成オール14	45	6.3	6.3	6.3	—
	えちご上越専用穂肥チャレンジャー	20	3.0	0.8	3.0	—
	土づくり肥料より一つ選択		（左記数値を参照）			
一発元肥体系	早生スーパー元肥	30	9.0	3.0	1.2	—
	パワフル30					

※一発元肥体系でも、生育状況に応じて追肥（穂肥）を実施する